

## 平成22年第3回景況調査結果について

2010年10月4日  
三重県農水商工部  
(財)三重県産業支援センター

## I 調査要領

1. 調査時点：2010年8月（上旬）
2. 調査対象：県内全域の企業1,000社
3. 調査方法：FAXによるアンケート調査
4. 回答状況：355社（有効回答率 35.5%）
5. 調査企業の産業、従業員規模数、地域別（県民センター別）内訳

## 【産業別】

	建設業	製造業	運輸・ 通信業	卸・ 小売業	金融・ 保険業	サービ ス業	合計
対象企業数	86	289	66	267	21	271	1,000
回答企業数	39	105	25	75	17	94	355
構成比 (%)	11.0	29.6	7.0	21.1	4.8	26.5	100

## 【従業員規模別】

	～5人	6～ 20人	21～ 50人	51～ 100人	101～ 300人	301～ 500人	501～ 1000人	1001 人～	合計
対象企業数	156	322	213	87	116	44	40	22	1,000
回答企業数	20	107	87	41	55	19	16	10	355
構成比 (%)	5.6	30.1	24.5	11.5	15.5	5.4	4.5	2.8	100

## 【県民センター別】

	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	合計
対象企業数	110	225	121	154	114	132	91	28	25	1,000
回答企業数	38	91	43	46	38	53	31	6	9	355
構成比 (%)	10.7	25.6	12.1	13.0	10.7	14.9	8.7	1.7	2.5	100

(注) 構成比等 (%) については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

- (注) 桑名県民センター（桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町）  
 四日市県民センター（四日市市・菰野町・朝日町・川越町）  
 鈴鹿県民センター（鈴鹿市・亀山市）  
 津県民センター（津市）  
 松阪県民センター（松阪市・多気町・明和町・大台町）  
 伊勢県民センター（伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・南伊勢町・度会町・大紀町）  
 伊賀県民センター（伊賀市・名張市）  
 尾鷲県民センター（尾鷲市・紀北町）  
 熊野県民センター（熊野市・御浜町・紀宝町）

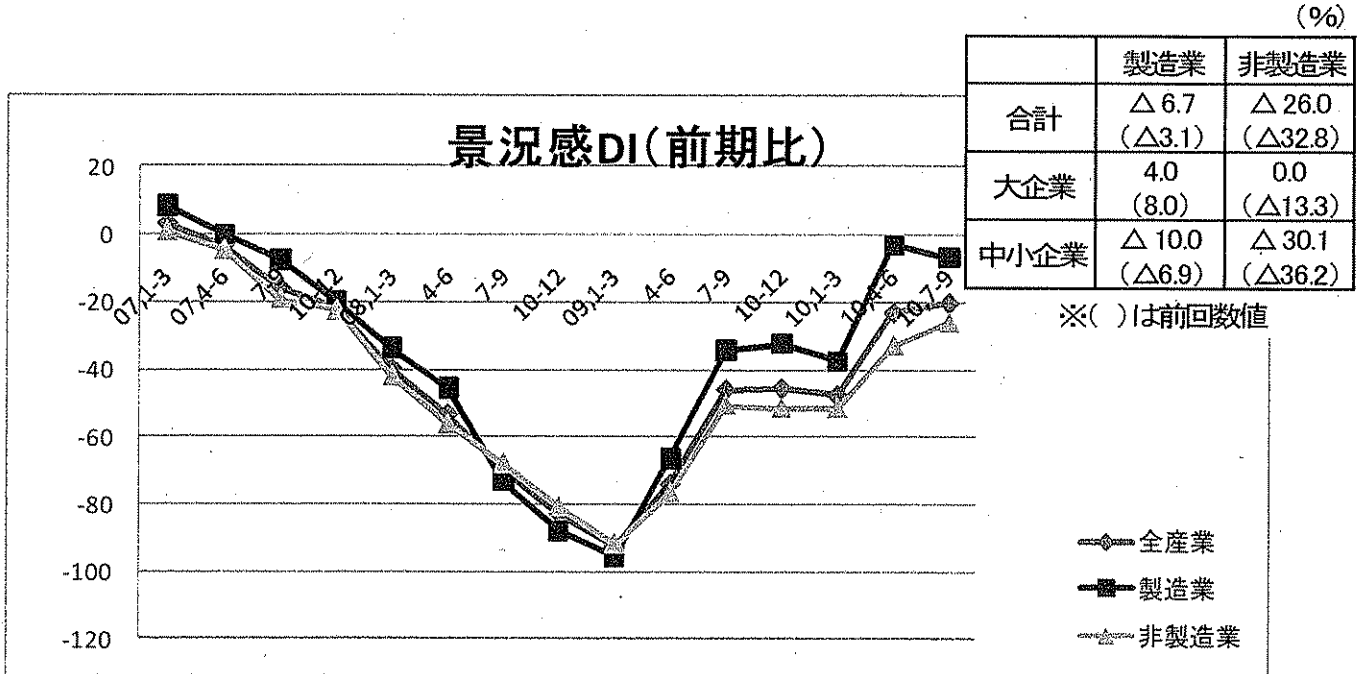
景況感DI＝前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値  
 業績DI＝今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値  
 雇用DI＝今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値  
 ※ 前期＝2010年4～6月 今期＝2010年7～9月 来期＝2010年10～12月

## II 概要 (主な調査項目のDI値の推移)

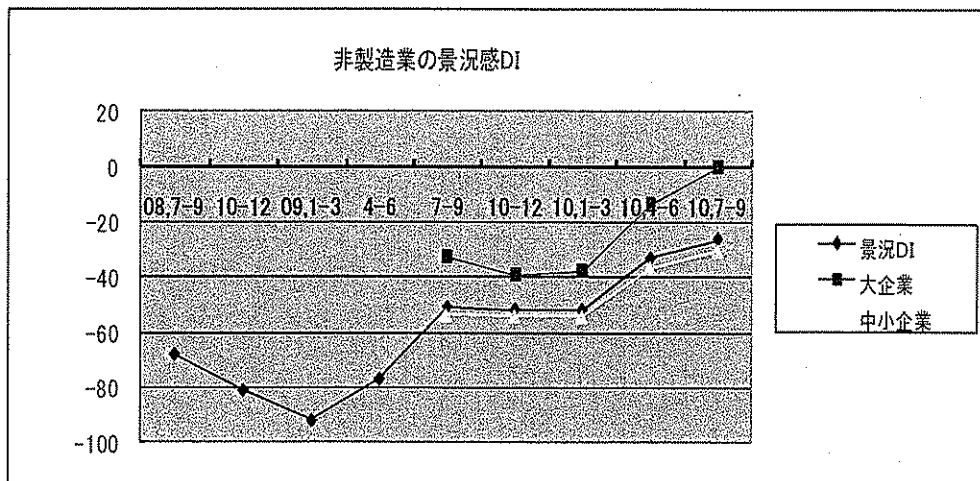
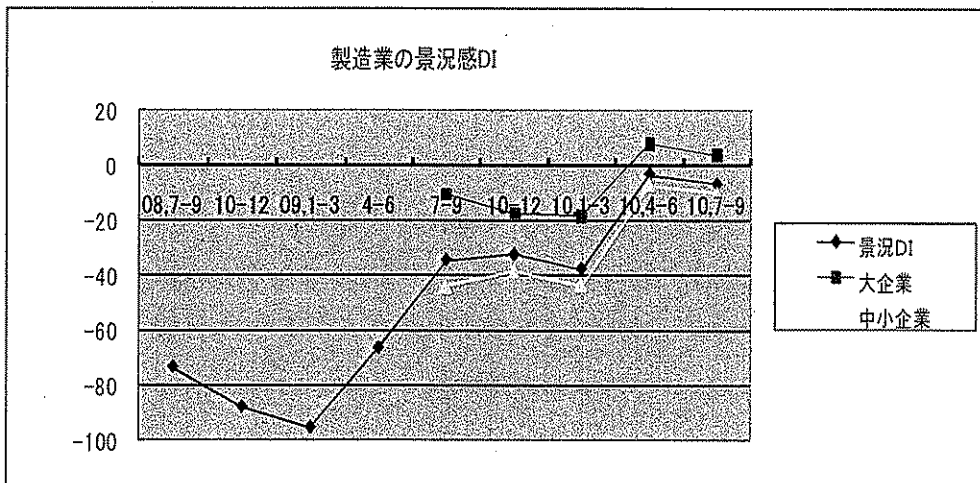
### 1. 景況感

景況感DI (前期比) は全産業でマイナス 20.3 ポイントとなり、前期より 2.9 ポイント改善しました。

製造業でマイナス 6.7 ポイントとなり、前期より 3.6 ポイント悪化しました。また、非製造業はマイナス 26.0 ポイントとなり、前期より 6.8 ポイント改善しました。



景況感DI = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値



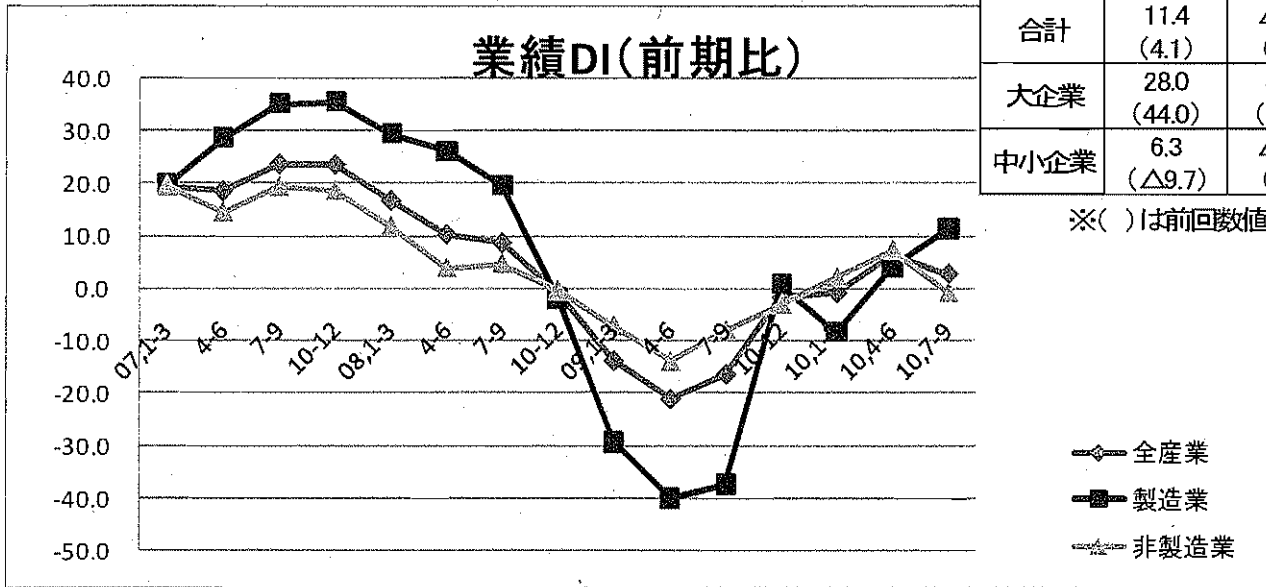
## 2. 業績

業績DI（利益状況）は全産業でプラス2.8ポイントとなり、前期より3.5ポイント悪化しました。

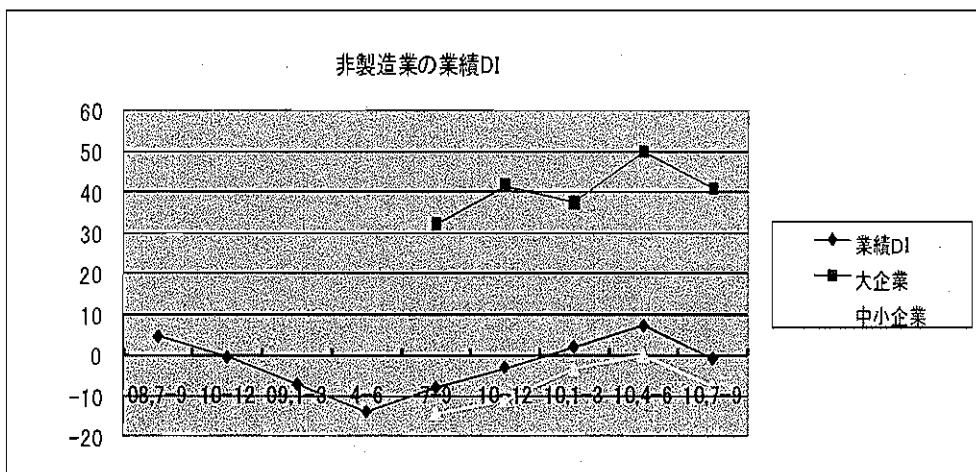
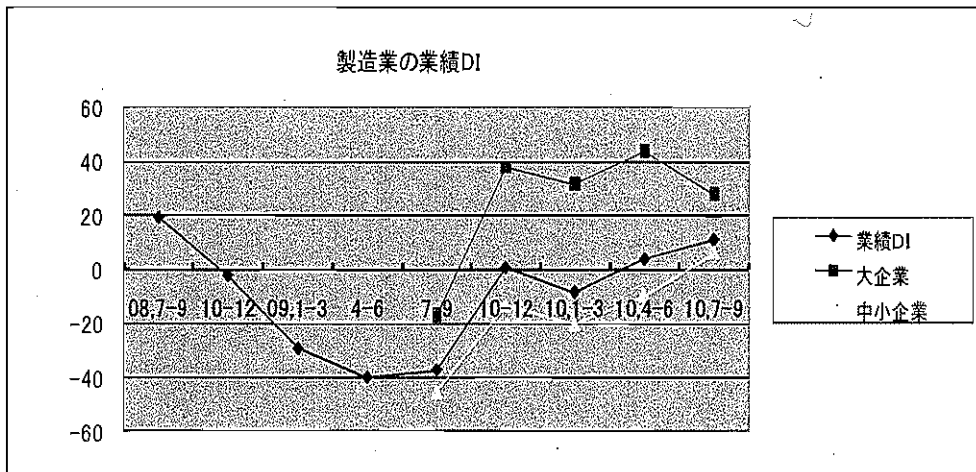
製造業で11.4ポイントとなり、前期より7.3ポイント改善しました。また、非製造業はマイナス0.8ポイントとなり、前期より8.1ポイント悪化しました。

(%)

	製造業	非製造業
合計	11.4 (4.1)	△0.8 (7.3)
大企業	28.0 (44.0)	41.1 (50.0)
中小企業	6.3 (△9.7)	△7.4 (0.0)



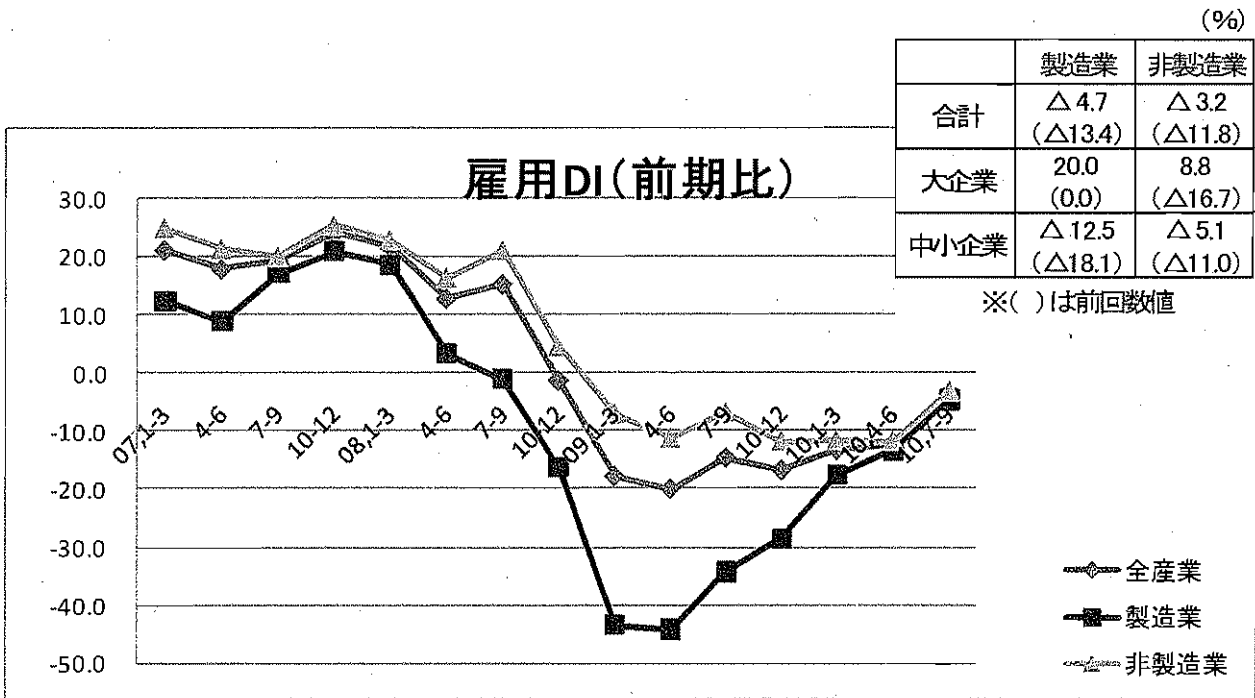
業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値



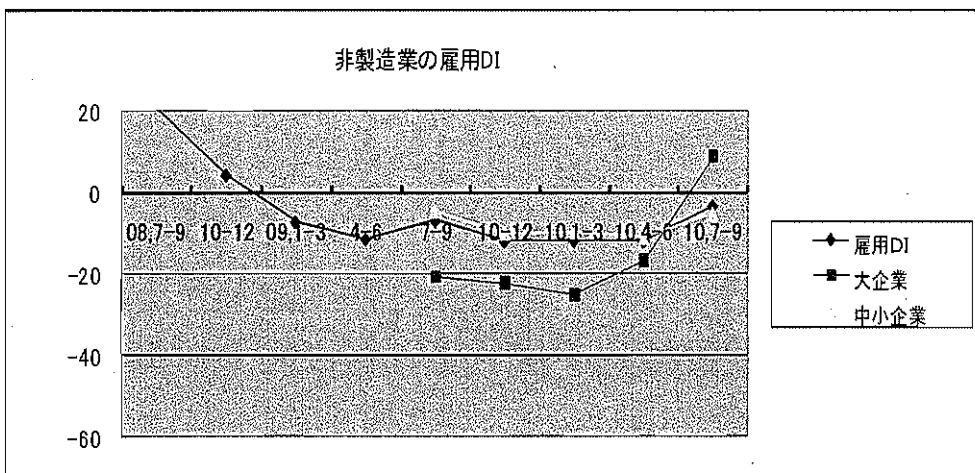
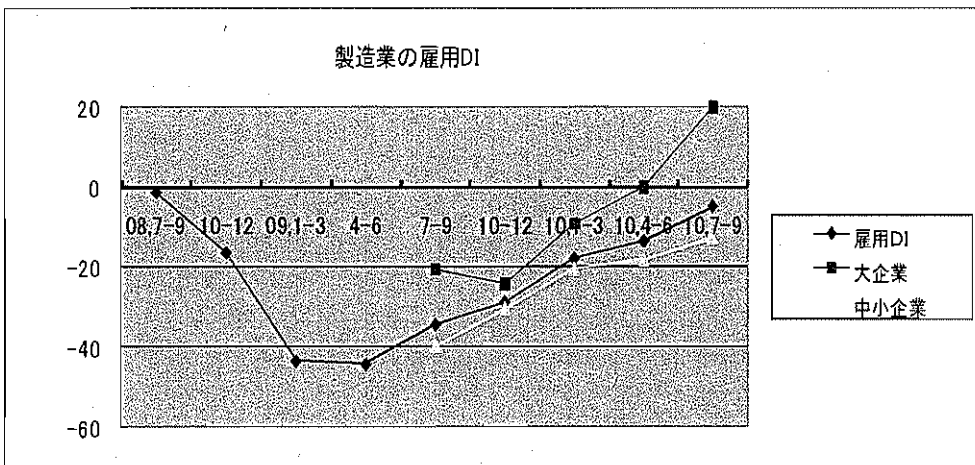
### 3. 雇用

雇用DIは全産業でマイナス3.7ポイントとなり、前期より8.6ポイント改善しました。

製造業でマイナス4.7ポイントとなり、前期より8.7ポイント改善しました。また、非製造業はマイナス3.2ポイントとなり、前期より8.6ポイント改善しました。



雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値



#### 4. 要約

今期の県内企業の景況について、景況感DI（全産業）はマイナス20.3ポイントとなり、09年1-3月期のマイナス92.7を底とする改善傾向は継続された結果となりました。業種別では、サービス業でポイントの改善が見られましたが、運輸・通信業、金融・保険業で大幅な悪化が見られました。

業績DI（全産業）はプラス2.8ポイントとなり、前期からはマイナス3.5ポイントの悪化が見られます。業種別では、建設業、金融・保険業で大幅な悪化が見られました。

雇用DI（全産業）はマイナス3.7ポイントとなり、前期からは8.6ポイントの改善となりました。業種別では、卸・小売業、運輸・通信業、サービス業でポイントの改善が見られました。

全体的には、全産業では景況感DI、雇用DIは回復傾向にあります。業績DIはわずかですが悪化しました。景気の回復時期については、2011年7月以降との見方が5割を超えています。

経営上の問題点としては、ほぼ7割の企業が「売上の不振」、ほぼ6割の企業が「利益の減少」を挙げており、緊急に求める支援策としては「減税」、「公共事業の増加」、「助成制度（補助金等）」を挙げる企業が多い結果となりました。

採用の見込みについては、「高校卒業予定者」、「短大及び四年制大学卒業予定者（事務系）」、「短大及び四年制大学卒業予定者（技術系）」ともに「採用なし」が約6割を占める結果となりました。

#### 5. 産業別

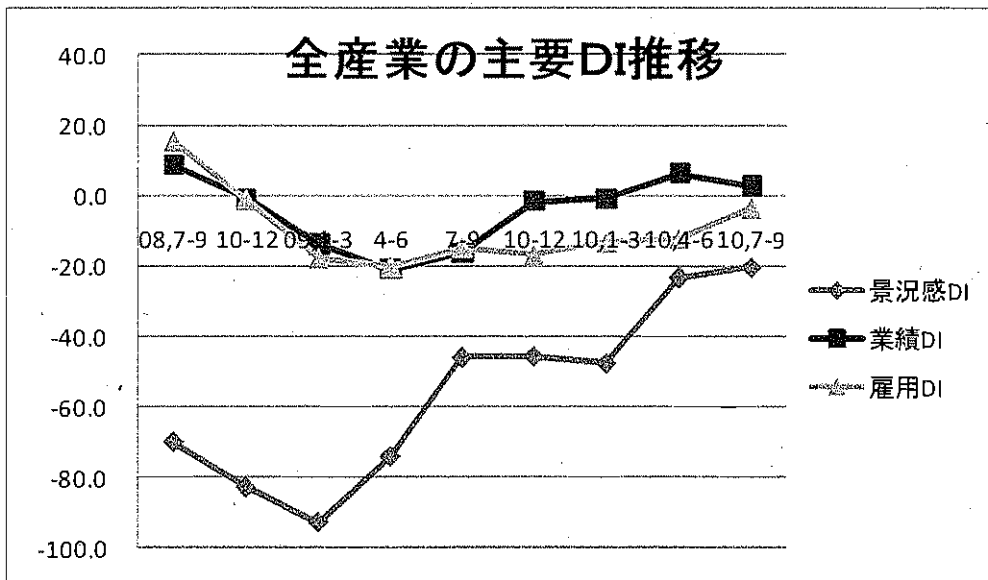
##### **全産業**（回答355社）

景況感、雇用については、マイナスが続くが回復方向に、業績についてはわずかに悪化。

景況感DI（前期比）は前期より2.9ポイント改善して、マイナス20.3ポイントとなりました。

業績DIは前期より3.5ポイント悪化して、プラス2.8ポイントとなりました。

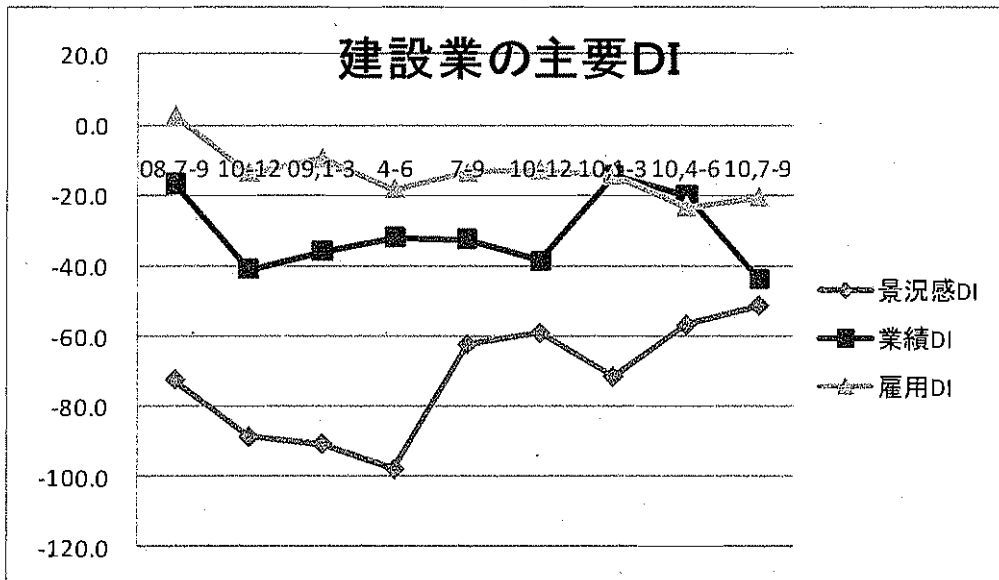
雇用DIは前期より8.6ポイント改善して、マイナス3.7ポイントとなりました。



## 建設業 (回答39社)

景況感、雇用は改善するものの、業績は大幅に悪化。

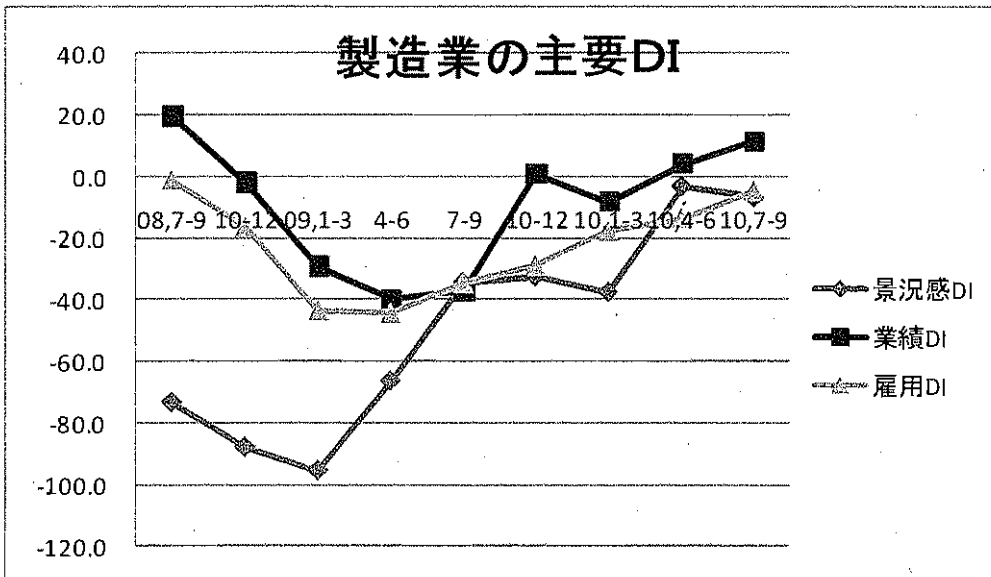
景況感DI (前期比) は前期より5.5ポイント改善して、マイナス51.2ポイントとなりました。  
 業績DIは前期より23.6ポイントと大幅に悪化して、マイナス43.6ポイントとなりました。  
 雇用DIは前期より2.9ポイント改善して、マイナス20.5ポイントとなりました。



## 製造業 (回答105社)

業績、雇用は改善。景況感は悪化。

景況感DI (前期比) は前期より3.6ポイント悪化して、マイナス6.7ポイントとなりました。  
 業績DIは前期より7.3ポイント改善して、プラス11.4ポイントとなりました。  
 雇用DIは前期より8.7ポイント改善して、マイナス4.7ポイントとなりました。



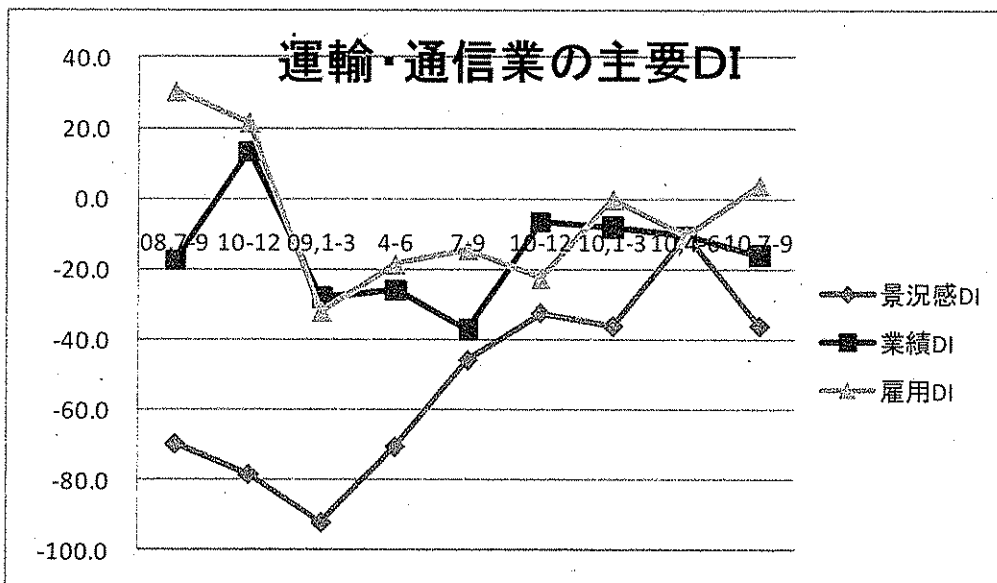
## 運輸・通信業 (回答25社)

景況感は大幅に悪化、業績は悪化、雇用は大幅に改善。

景況感DI (前期比) は前期より25.4ポイントと大幅に悪化して、マイナス36.0ポイントとなりました。

業績DIは前期より5.5ポイント悪化して、マイナス16.0ポイントとなりました。

雇用DIは前期より14.6ポイントと大幅に改善して、プラス4.0ポイントとなり、プラスに転換しました。



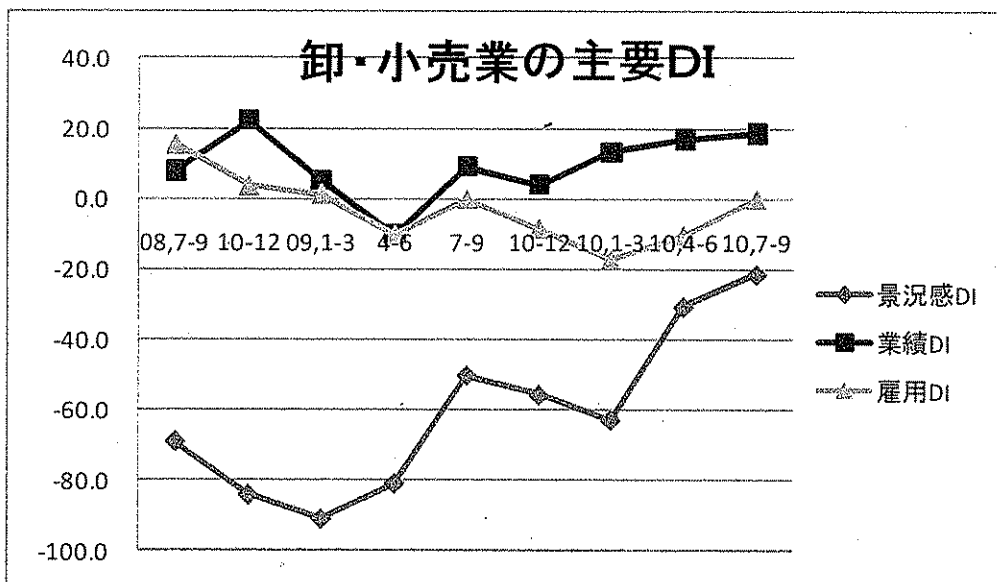
## 卸・小売業 (回答75社)

景況感、業績は改善、雇用は大幅に改善。

景況感DI (前期比) は前期より9.2ポイント改善して、マイナス21.3ポイントとなりました。

業績DIは前期より1.7ポイント改善して、プラス18.7ポイントとなりました。

雇用DIは前期より10.1ポイントと大幅に改善して、±0ポイントとなりました。



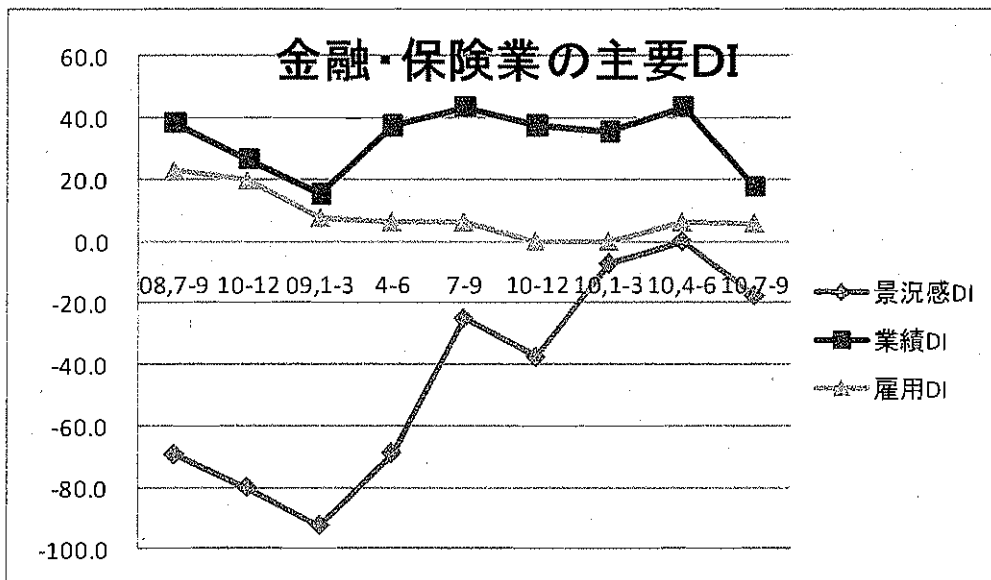
## 金融・保険業 (回答17社)

景況感、業績は大幅に悪化、雇用はわずかに悪化。

景況感D I (前期比) は前期より17.6ポイントと大幅に悪化して、マイナス17.6ポイントとなりました。

業績D Iは前期より26.0ポイントと大幅に悪化して、プラス17.7ポイントとなりました。

雇用D Iは前回より0.4ポイントとわずかに悪化して、プラス5.9ポイントとなりました。



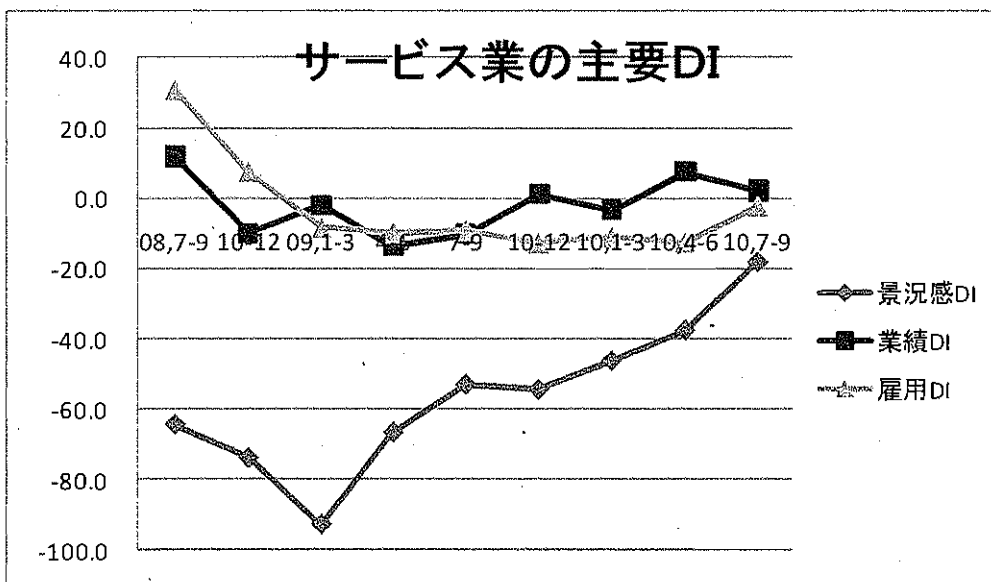
## サービス業 (回答94社)

景況感、雇用は大幅に改善。業績は悪化。

景況感D I (前期比) は前期より19.4ポイントと大幅に改善して、マイナス18.1ポイントとなりました。

業績D Iは前期より5.4ポイント悪化して、プラス2.1ポイントとなりました。

雇用D Iは前期より10.3ポイント大幅に改善して、マイナス2.2ポイントとなりました。



### III 県民センター別の主要D I

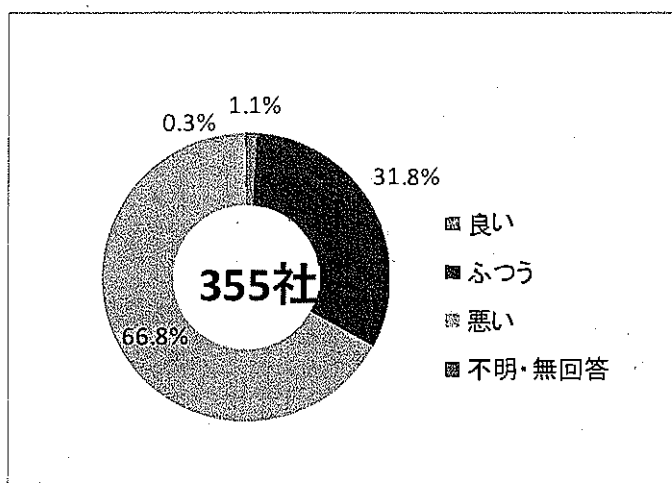
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	伊勢	伊賀	尾鷲	熊野	全体
今期景況感D I	-34.2	-13.2	-2.3	-13.0	-42.1	-32.1	-3.2	-50.0	-33.3	-20.3
前期	-14.3	-19.4	-8.3	-19.5	-22.8	-45.6	-25.0	-44.5	-16.7	-23.2
今期業績D I	0	15.4	4.7	2.1	-15.8	3.8	6.4	-16.6	-44.4	2.8
前期	14.3	6.9	13.9	12.2	-2.9	8.7	-3.5	0.0	-33.3	6.3
今期雇用D I	-2.7	0.0	-4.7	-2.2	-10.6	0.0	-6.5	-33.3	-11.1	-3.7
前期	-7.2	-20.8	-8.3	-12.2	-5.8	-13.1	-17.8	-11.1	33.3	-12.3



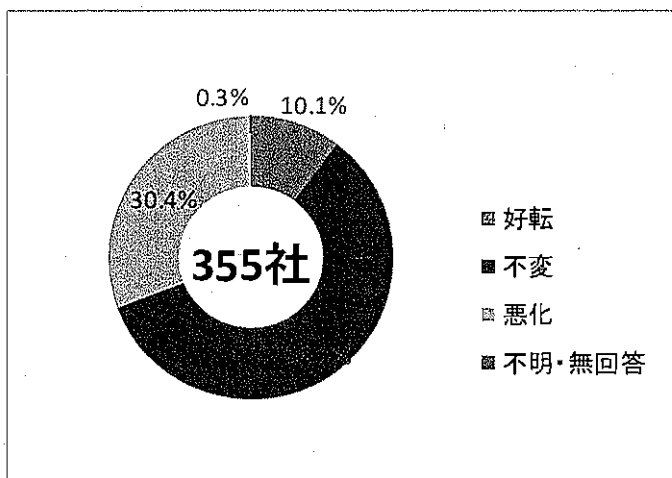
#### IV 全調査項目の結果詳細

##### 1. 景気

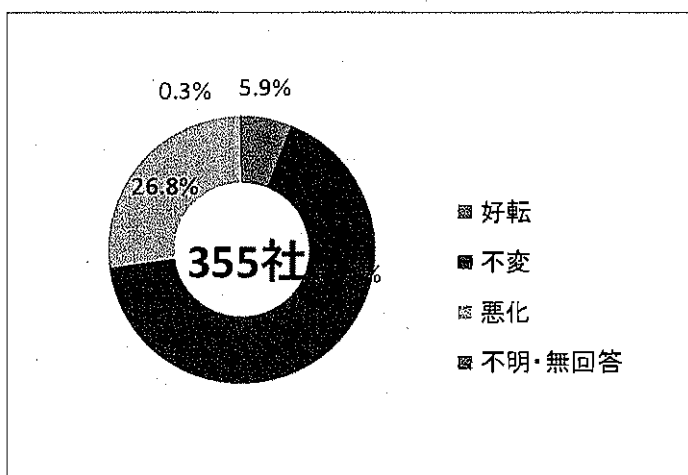
(1) 今期の県内景気については、「良い」1.1%(4社)、「ふつう」31.8%(113社)、「悪い」66.8%(237社)となっています。



(2) 前期と比べた今期の県内景気については、「好転」10.1%(36社)、「不変」59.2%(210社)、「悪化」30.4%(108社)となっています。

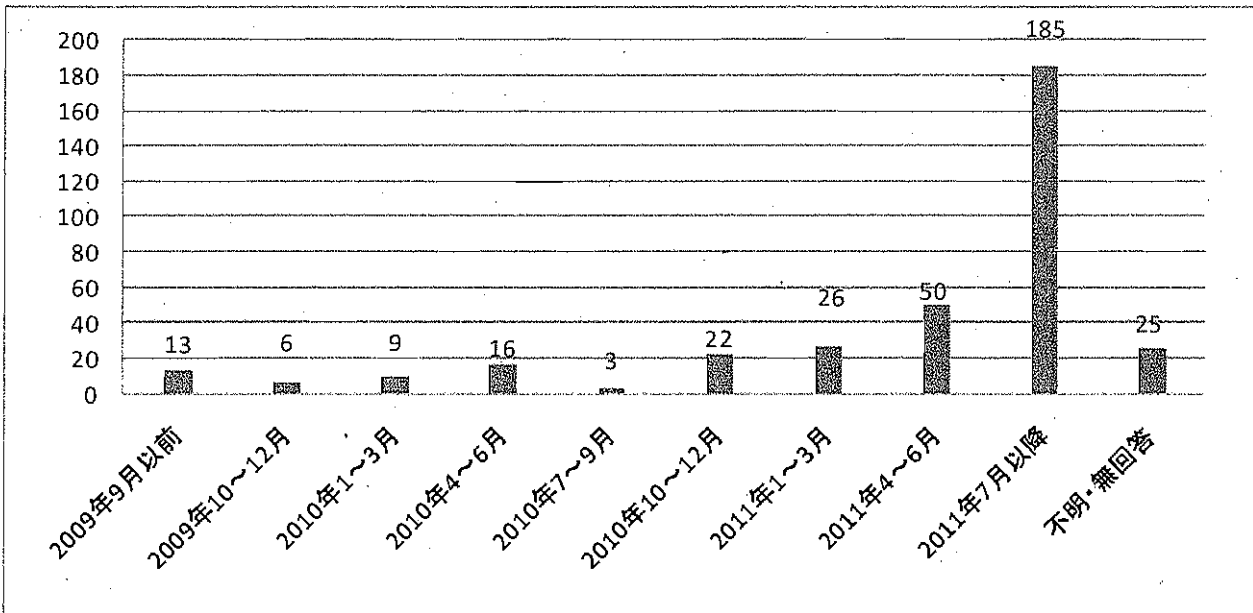


(3) 今期と比べた来期の県内景気については、「好転」5.9%(21社)、「不変」67.0%(238社)、「悪化」26.8%(95社)となっています。



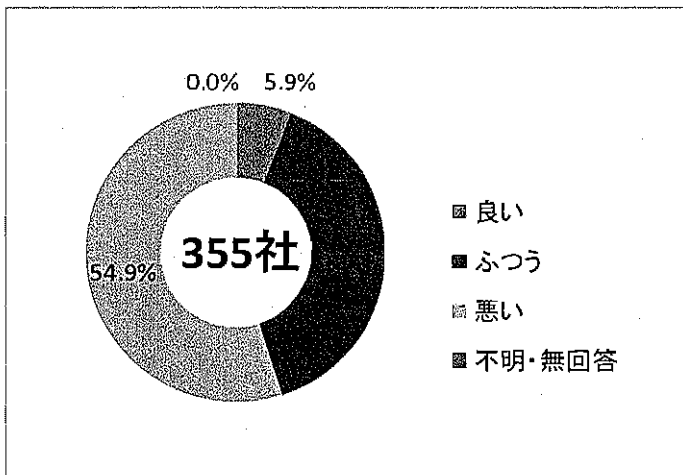
(4) 国内景気の回復時期については、「2011年7月以降」が52.1% (185社) でもっとも多く、「2010年4～6月」が14.1% (50社)、「2011年1～3月」が7.3% (26社) となっています。

国内景気の回復時期

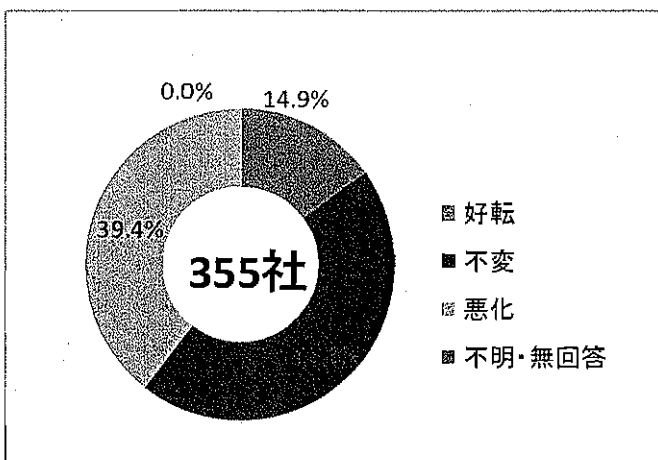


## 2. 業況

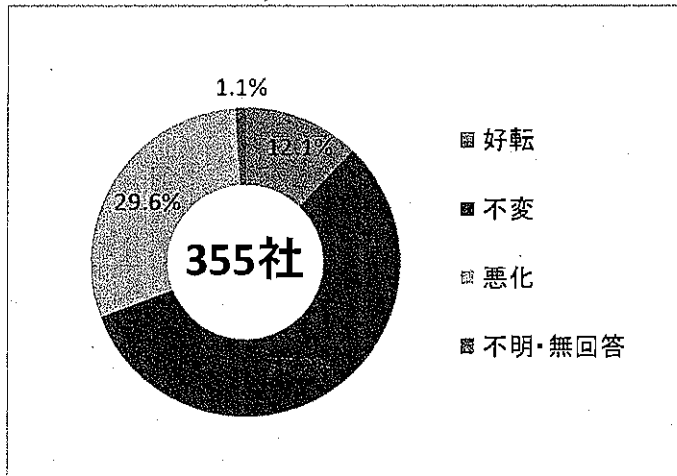
(1) 今期の業況については、「良い」5.9% (21社)、「ふつう」39.2% (139社)、「悪い」54.9% (195社) となっています。



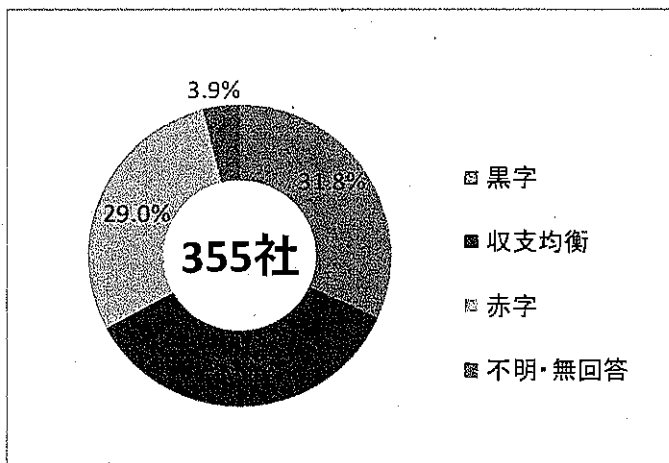
(2) 前期と比べた今期の業況については、「好転」14.9% (53社)、「不変」45.6% (162社)、「悪化」39.4% (140社) となっています。



(3) 今期と比べた来期の業況見込みについては、「好転」12.1% (43社)、「不変」57.2% (203社)、「悪化」29.6% (105社) となっています。

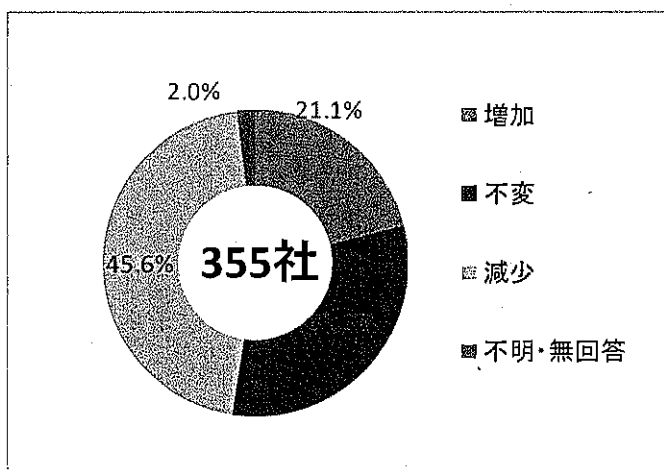


(4) 今期の利益状況については、「黒字」31.8% (113社)、「収支均衡」35.2% (125社)、「赤字」29.0% (103社) となっています。

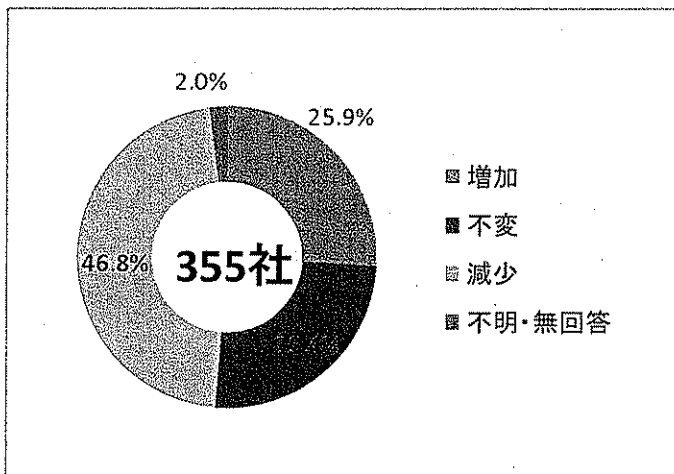


### 3. 売上高

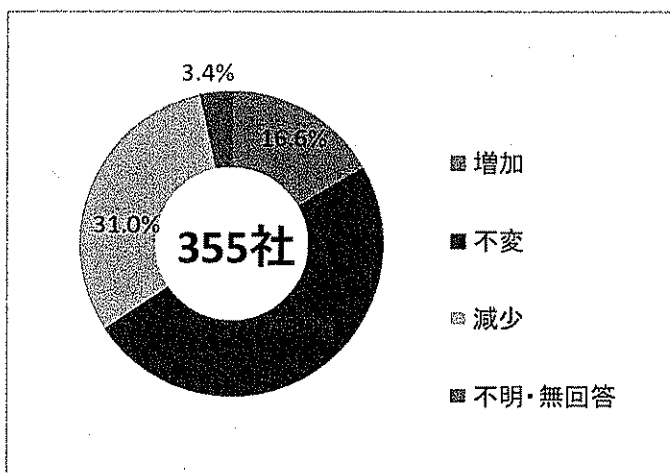
(1) 売上高の前期比較については、「増加」21.1% (75社)、「不変」31.3% (111社)、「減少」45.6% (162社) となっています。



(2) 売上高の前年同期比較については、「増加」25.9% (92社)、「不変」25.4% (90社)、「減少」46.8% (166社) となっています。

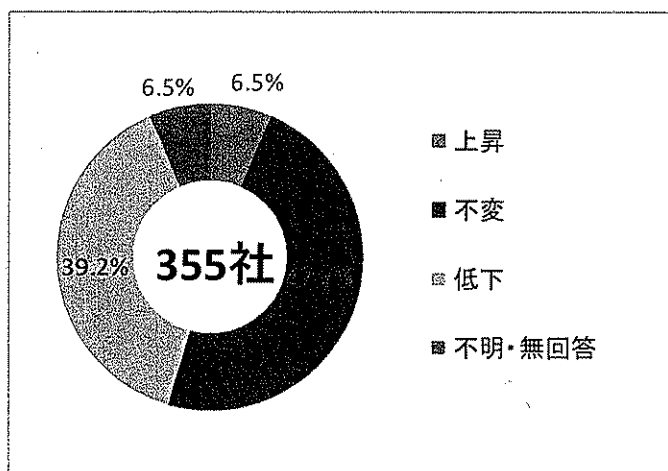


(3) 売上高の来期見込みについては、「増加」16.6% (59社)、「不変」49.0% (174社)、「減少」31.0% (110社) となっています。

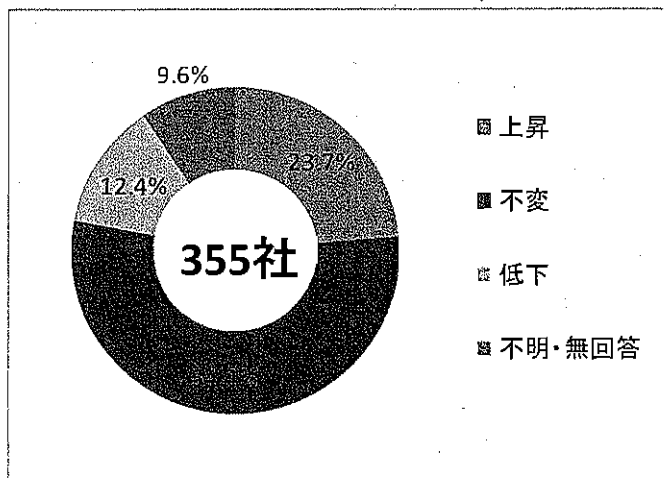


#### 4. 価格

(1) 今期の販売価格・受注単価については、「上昇」6.5% (23社)、「不変」47.9% (170社)、「低下」39.2% (139社) となっています。



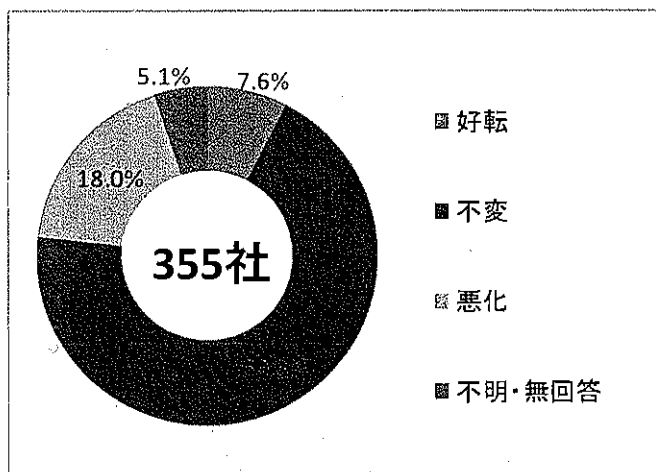
(2) 今期の仕入価格（原材料・商品）については、「上昇」23.7%（84社）、「不変」54.4%（193社）、「低下」12.4%（44社）となっています。



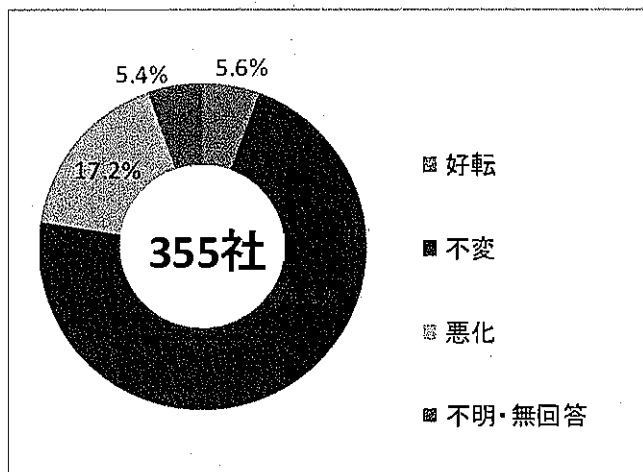
### 5. 資金繰り

(1) (2) 資金繰りについては、今期が69.3%（246社）、来期も71.8%（255社）の企業が「不変」としており、今期は「好転」が7.6%（27社）、「悪化」が18.0%（64社）、来期は「好転」が5.6%（20社）、「悪化」が17.2%（61社）と、今期・来期とも「悪化」が「好転」を大幅に上回っています。

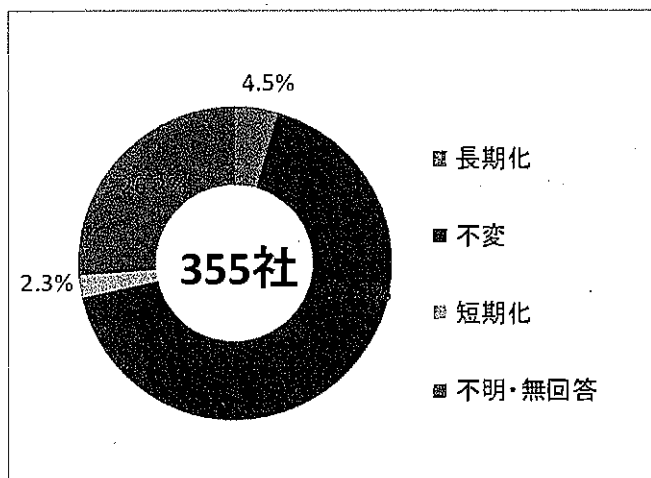
今期資金繰り（前期比）



来期資金繰り（今期比）

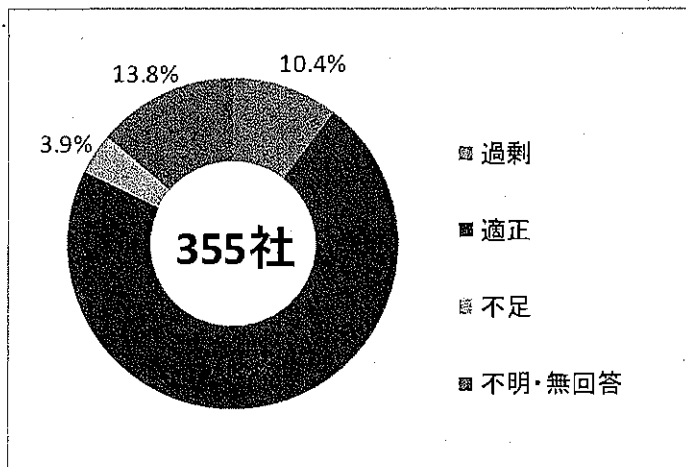


(3) 受取手形の期間は、「長期化」4.5%（16社）、「不変」67.0%（238社）、「短期化」2.3%（8社）となっています。



## 6. 製品（商品）・原材料在庫

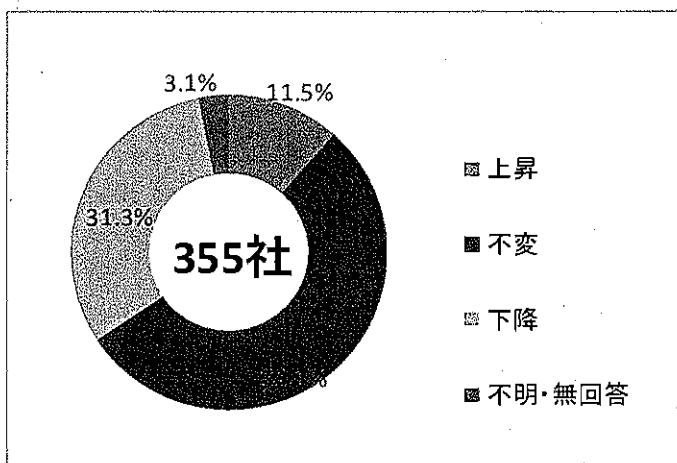
現在の製品在庫状況については、「過剰」10.4%（37社）、「適正」71.8%（255社）、「不足」3.9%（14社）となっています。



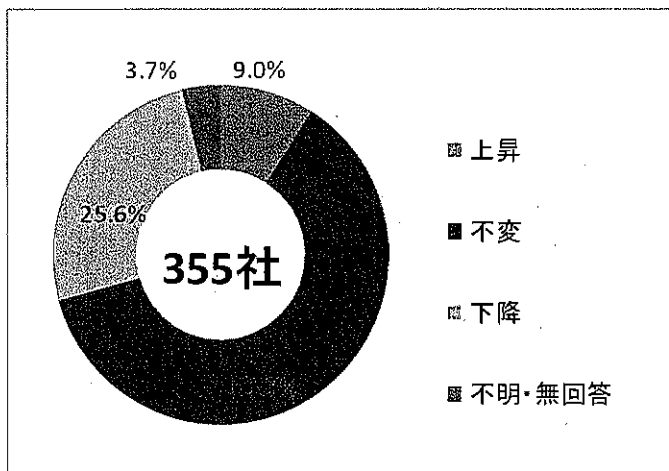
## 7. 設備投資意欲

〔設備投資意欲〕

(1) 前期と比べた今期の設備投資意欲については、「上昇」11.5%（41社）、「不変」54.1%（192社）、「下降」31.3%（111社）となっています。

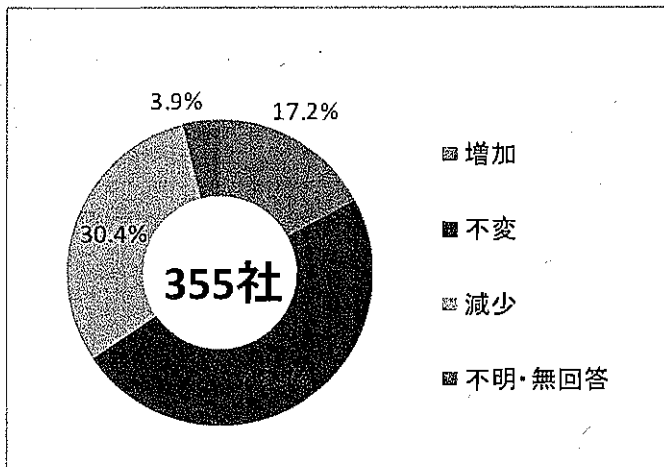


(2) 今期と比べた来期の設備投資意欲は、「上昇」9.0%（32社）、「不変」61.7%（219社）、「下降」25.6%（91社）となっています。

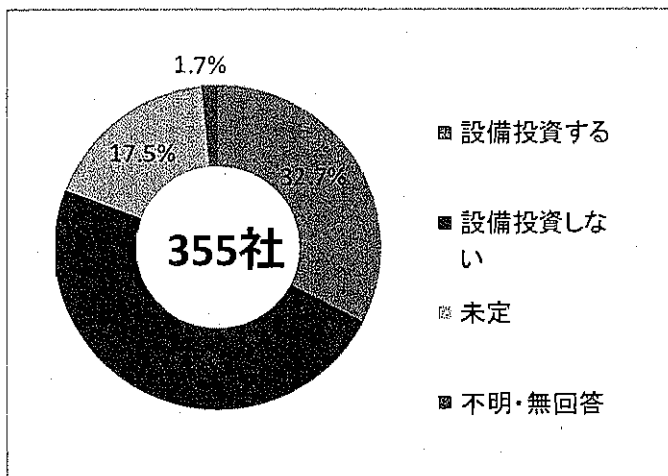


〔設備投資状況〕

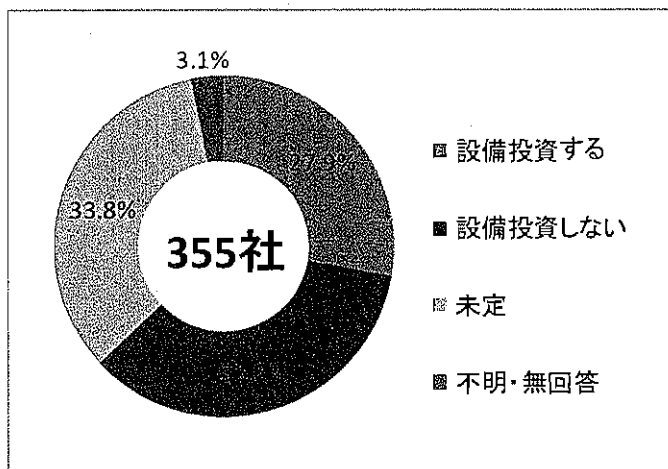
(3) 平成 21 年度上半期 (2009 年 4 月～2009 年 9 月) と比べた平成 22 年度上半期 (2010 年 4 月～2010 年 9 月) の設備投資計画額は、「増加」17.2% (61 社)、「不変」48.5% (172 社)、「減少」30.4% (108 社) となっています。



(4) 今期の設備投資予定は、「する」32.7% (116 社)、「しない」48.2% (171 社)、「未定」17.5% (62 社) となっています。

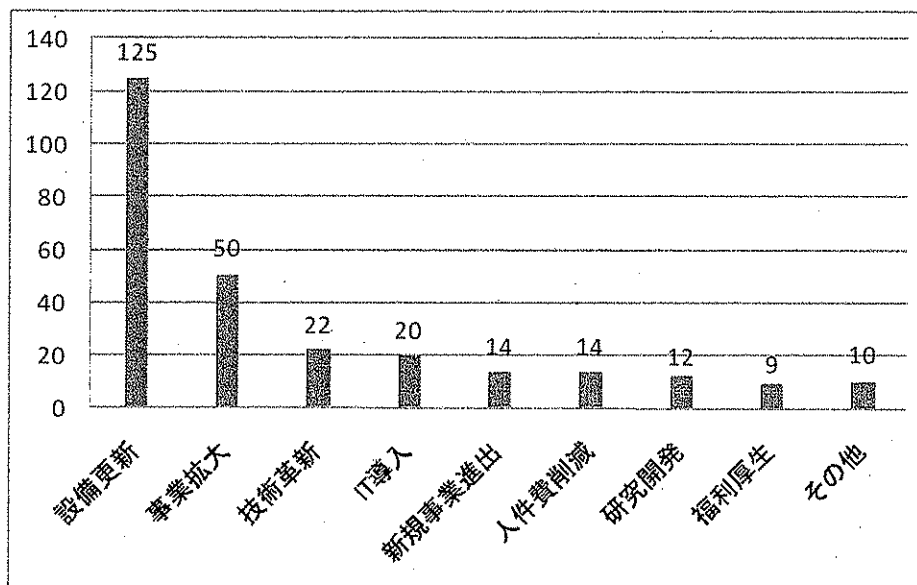


(5) 来期の設備投資予定は、「する」27.9% (99 社)、「しない」35.2% (125 社)、「未定」33.8% (120 社) となっています。



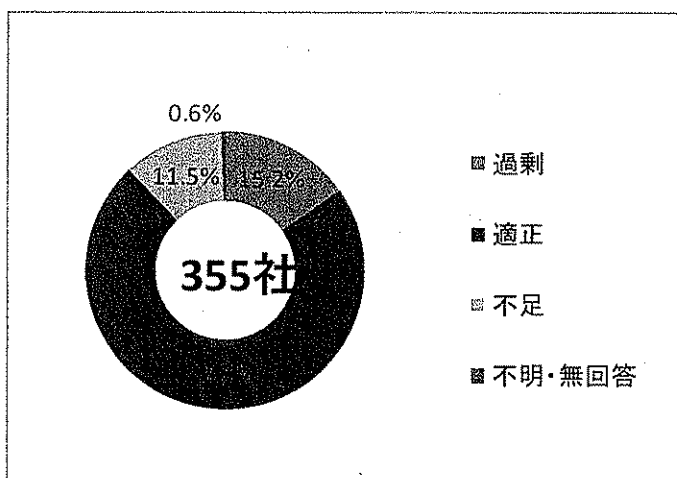
- (6) 設備投資の主目的は、回答のあった161社のうち、「設備更新」77.6% (125社)、「事業拡大」31.1% (50社)、「技術革新」13.7% (22社)の順となっています。

161社の回答 (複数回答可)



## 8. 雇用状態

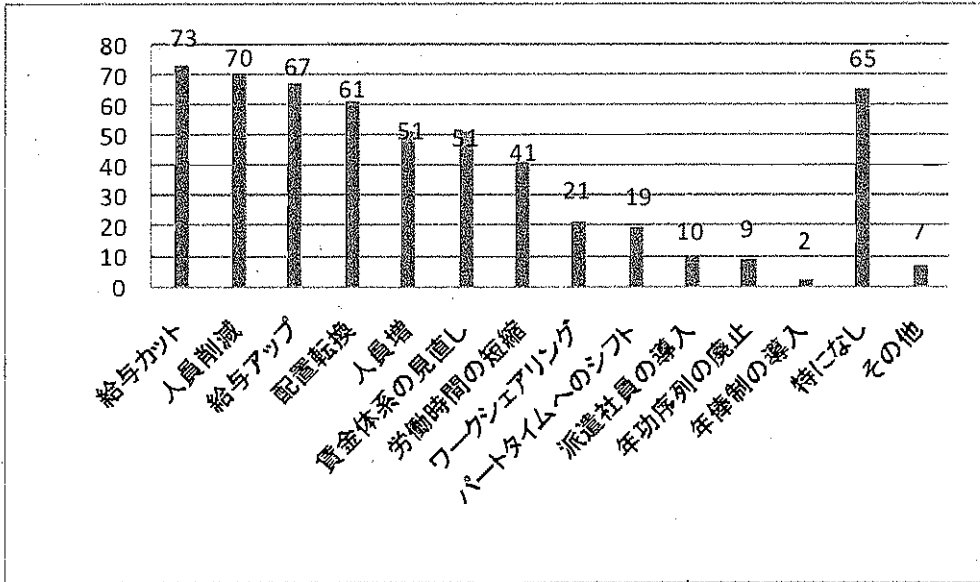
- (1) 今期の雇用状態については、「過剰」15.2% (54社)、「適正」72.7% (258社)、「不足」11.5% (41社)となっています。





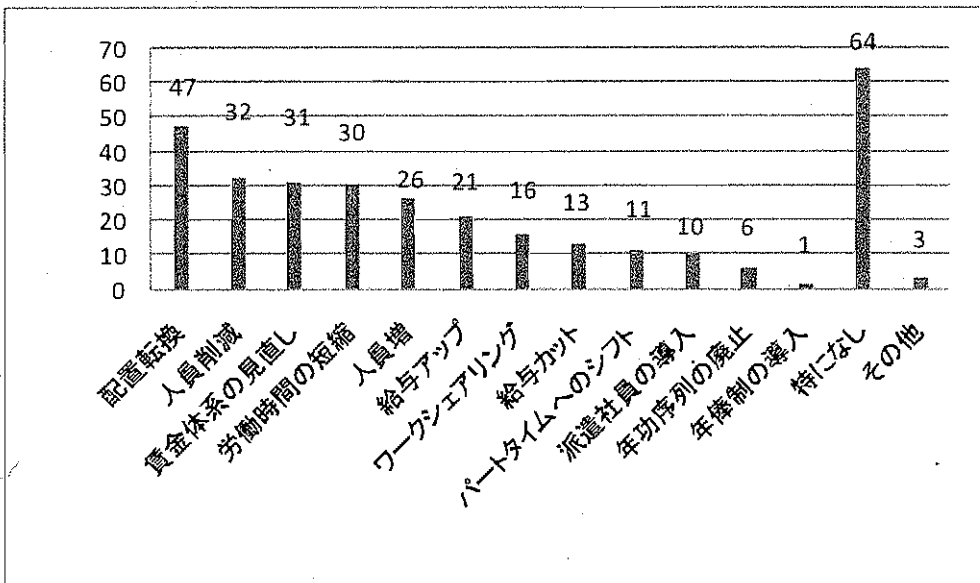
(2) 過去1年に行った雇用問題対策は、有効な回答のあった343社（複数回答可）では、「給与カット」21.3%（73社）、「人員削減」20.4%（70社）、「給与アップ」19.5%（67社）、「配置転換」17.8%（61社）、「人員増」及び「賃金体系の見直し」14.9%（51社）の順となっています。

雇用問題対策（過去1年） 343社の回答（複数回答可）



今後行う予定の雇用問題対策は、有効な回答のあった220社（複数回答可）では、「配置転換」21.4%（47社）、「人員削減」14.5%（32社）、「賃金体系の見直し」14.1%（31社）、「労働時間の短縮」13.6%（30社）の順となっています。

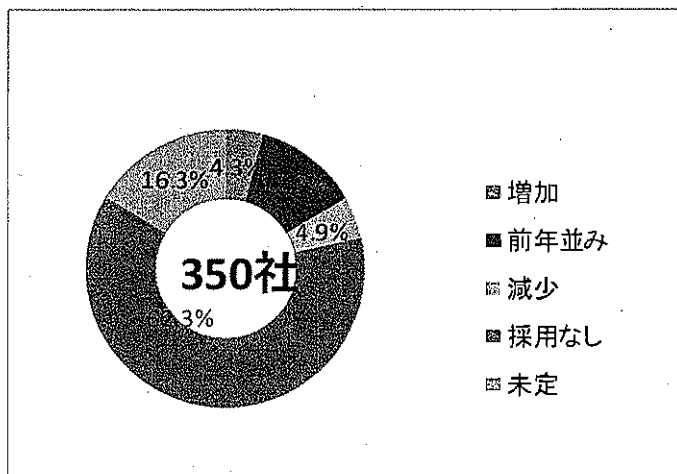
雇用問題対策（今後の予定） 220社の回答（複数回答可）



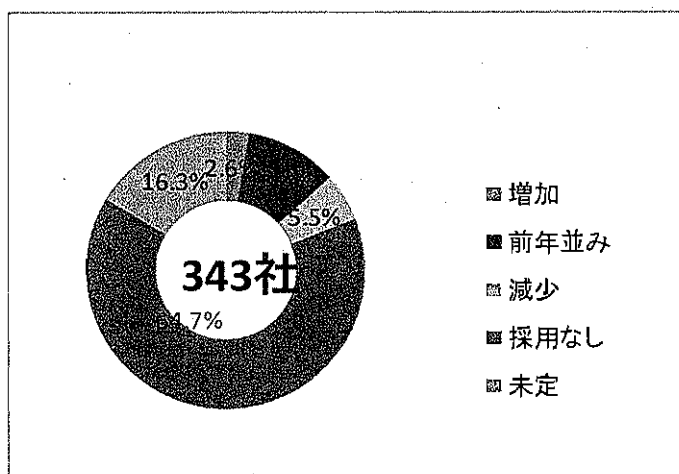
## 9. 採用予定

採用の見込みについては、全355社のうち「未定」、「不明無回答」を除くと(1)高校卒業予定者について「増加」4.3%(15社)、「前年並み」12.3%(43社)、「減少」4.9%(17社)、「採用なし」62.3%(218社)、(2)短大及び四年制大学卒業予定者(事務系)について「増加」2.6%(9社)、「前年並み」10.8%(37社)、「減少」5.5%(19社)、「採用なし」64.7%(222社)、(3)短大及び四年制大学卒業予定者(技術系)について「増加」2.9%(10社)、「前年並み」11.4%(39社)、「減少」4.7%(16社)、「採用なし」61.3%(209社)となっています。

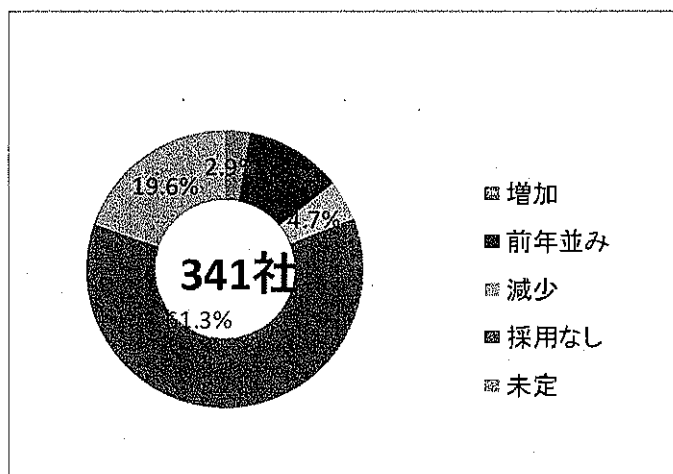
高校卒業予定者採用予定



短大及び四年制大学卒業予定者(事務系)

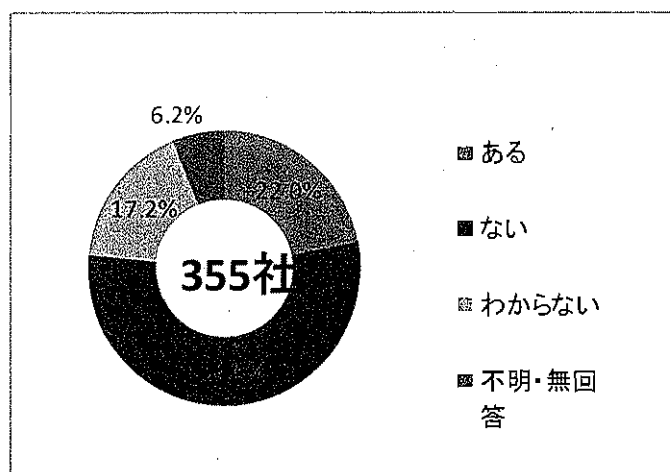


短大及び四年制大学卒業予定者(技術系)

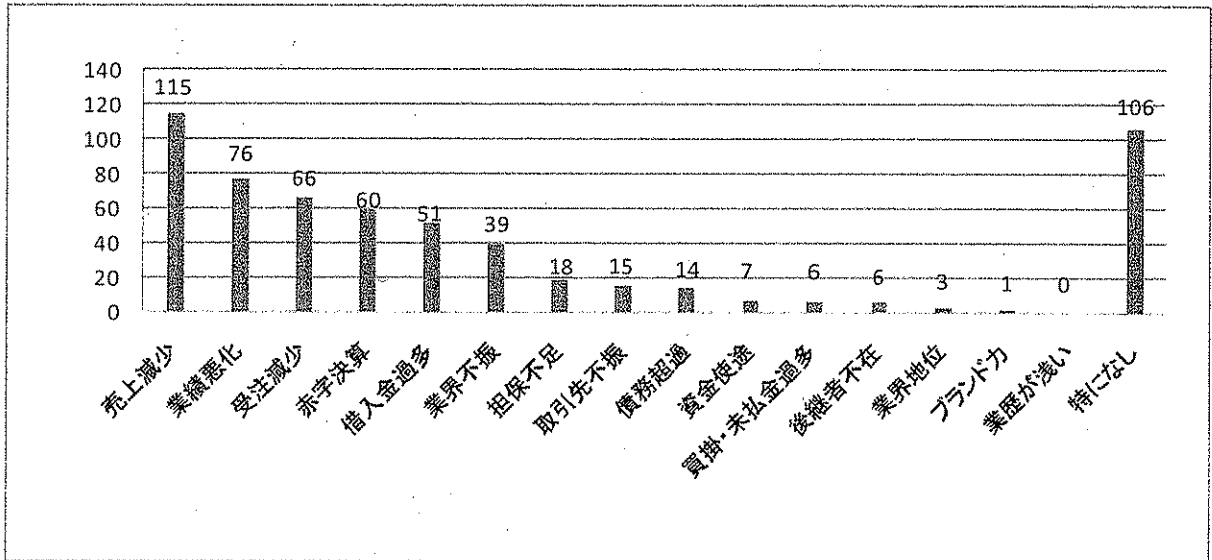


## 10. 資金調達

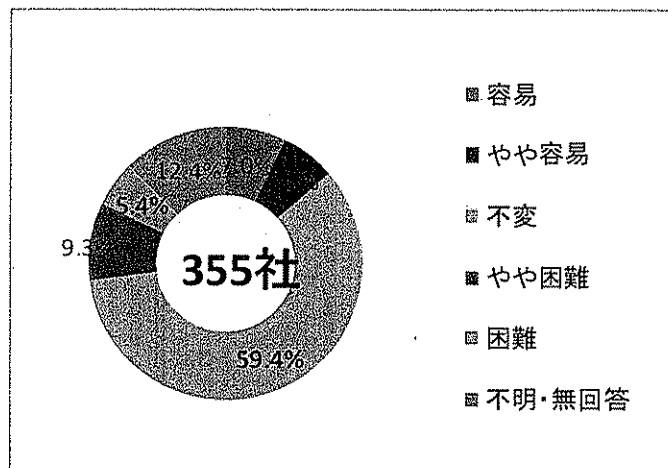
(1)新規の借入、または借入の増額を行う必要については、「ある」22.0%(78社)、「ない」54.6%(194社)となっています。



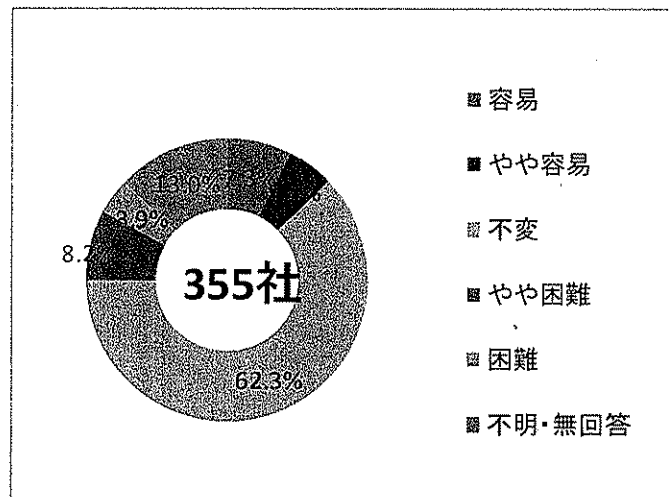
(2) 借入にあたっての問題については、有効回答のあった285社では、「売上減少」40.4% (115社)、「業績悪化」26.7% (76社)、「受注減少」23.2% (66社)の順となっています。(複数回答可)



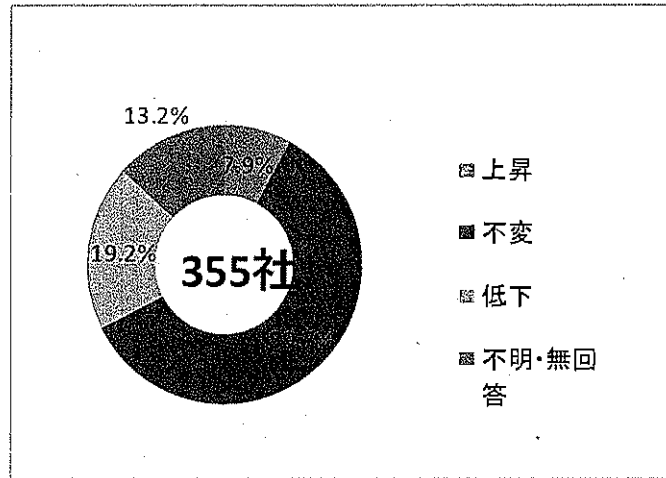
(3) 前期と比べた今期の長期資金借り入れ難度は、「容易」7.0% (25社)、「やや容易」6.5% (23社)、「不変」59.4% (211社)、「やや困難」9.3% (33社)、「困難」5.4% (19社)となっています。



(4) 前期と比べた今期の短期資金借り入れ難度は、「容易」7.3% (26社)、「やや容易」5.4% (19社)、「不変」62.3% (221社)、「やや困難」8.2% (29社)、「困難」3.9% (14社)となっています。

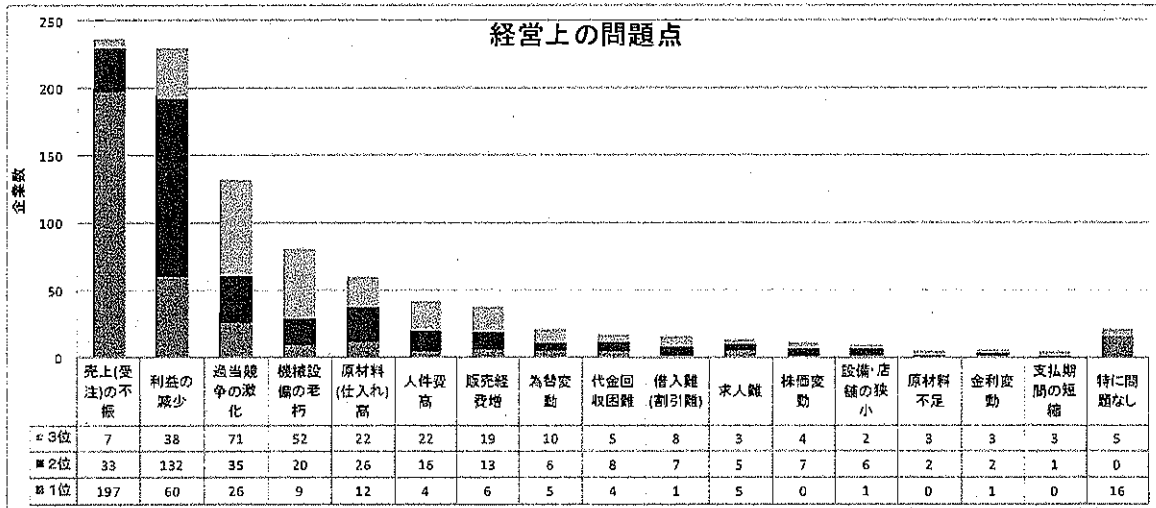


(5) 前期と比べた今期の借り入れ金利は、「上昇」7.9% (28社)、「不変」59.7% (212社)、「低下」19.2% (68社) となっています。

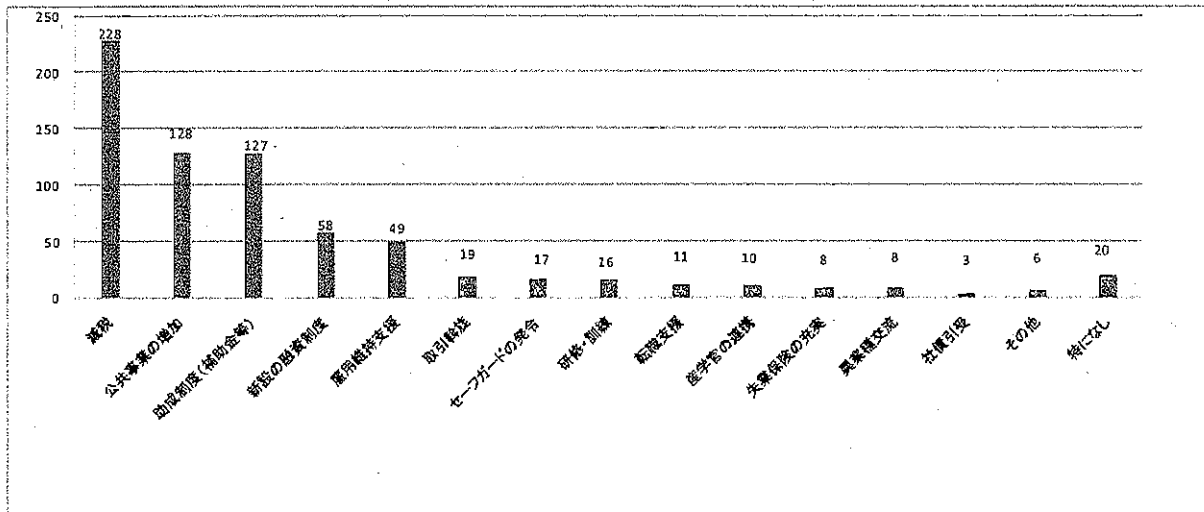


### 1.1. 経営上の問題

(1) 経営上の問題点としては、「売上の不振」237社、「利益の減少」230社、「過当競争の激化」132社の順となっています。(上位3項目選択)



(2) 効果があると考えられる公共機関が行う企業支援策としては、「減税」66.5% (228社)、「公共事業の増加」37.3% (128社)、「助成制度(補助金等)」37.0% (127社)の順となっています。(複数回答可)



(3) 公共機関が行う企業支援策のうち、特に緊急を要するものとしては、「減税」54.3% (171社)、「公共事業の増加」32.7% (103社)、「助成制度(補助金等)」16.5% (52社)の順となっています。(複数回答可)

